ボッシュ株式会社　電動工具事業部

ホームページ：http://www.bosch.co.jp

〒150-8360　東京都渋谷区渋谷 3-6-7

コールセンターフリーダイヤル

0120-345-762

（土・日・祝日を除く、午前 9：00〜午後 6：00）

＊ 携帯電話からお掛けのお客様は、TEL. 03-5485-6161 をご利用ください。コールセンターフリーダイヤルのご利用はできませんのでご了承ください。

1 619 929 L98（12.07）

ディスクグラインダー
GWS 12-125CI

取扱説明書

このたびは、弊社ディスクグラインダーをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

- ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、この『取扱説明書』を大切に保管してください。わからないことが起きたときは、必ず読み返してください。

- 本取扱説明書に記載されている、日本仕様の能力・型番などは、外国語の印刷物とは異なる場合があります。
- 本製品は改良のため、予告なく仕様等を変更する場合があります。
- 製品のカタログ請求、その他ご不明な点がありましたら、お買い求めになった販売店または弊社までお問い合わせください。

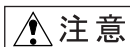
目　次

安全上のご注意

◆ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、次に述べる『安全上のご注意』を必ず守ってください。
◆ ご使用前に、この『安全上のご注意』すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
◆ お読みになった後は、ご使用になる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
◆ 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

警告表示の区分

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 に区分していますが、それぞれ次の意味を表わします。

⚠警告 ◆ **誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ◆ **誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

電動工具全般についての注意事項

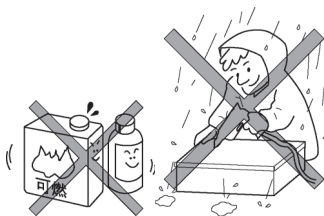
ここでは、電動工具全般の『安全上のご注意』について説明します。今回お買い求めいただいたディスクグラインダーには、当てはまらない項目も含まれています。

⚠ 警　告

1. 作業場は、いつもきれいに保ってください。

ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。

2. 作業場の周囲状況も考慮してください。

◆ 電動工具は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用しないでください。
◆ 作業場は十分に明るくしてください。
◆ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

3. 感電に注意してください。

◆ 電動工具を使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

4. 子供を近づけないでください。

◆ 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
◆ 作業者以外、作業場へ近づけないでください。

5. 使用しない場合は、きちんと保管してください。

◆ 乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または鍵のかかる所に保管してください。

6. 無理して使用しないでください。

◆ 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
◆ モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。

7. 作業に合った電動工具を使用してください。

◆ 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
◆ 指定された用途以外に使用しないでください。

8. きちんとした服装で作業してください。

◆ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので着用しないでください。
◆ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
◆ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

9. 保護めがねを使用してください。

◆ 作業時は、保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

10. 防音保護具を着用してください。

◆ 騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。

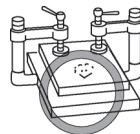
11. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。

◆ 電動工具に集じん機などが接続できる場合には、これらの装置に確実に接続し、正しく使用してください。

12. コードを乱暴に扱わないでください。

◆ コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
◆ コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

13. 加工するものをしっかりと固定してください。

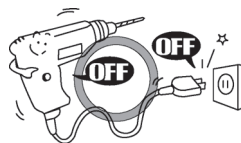
◆ 加工するものを固定するために、クランプや万力を使用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

14. 無理な姿勢で作業をしないでください。

◆ 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

15. 電動工具は、注意深く手入れをしてください。

◆ 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
◆ 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
◆ コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
◆ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
◆ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースなどが付かないようにしてください。

16. 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

◆ 使用しない、または修理する場合。
◆ 刃物、砥石、ビットなどの付属品を交換する場合。
◆ その他危険が予想される場合。

17. 調節キーやレンチなどは、必ず取り外してください。

◆ 電源を入れる前に、調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取り外してあることを確認してください。

18. 不意な始動は避けてください。

◆ 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
◆ 電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。

19. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

◆ 屋外で使用する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

20. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

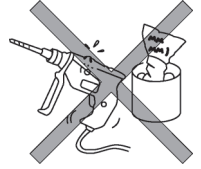
◆ 電動工具を使用する場合は、取り扱い方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
◆ 常識を働かせてください。
◆ 疲れている場合は、使用しないでください。

21. 損傷した部品がないか点検してください。

◆ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。

◆ 可動部分の位置調整、および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響を及ぼすすべての個所に異常がないか確認してください。

◆ 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。

◆ スイッチで始動、および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

22. 異常や故障時には、直ちに使用を中止し、すぐに電源プラグを電源コンセントから抜いてお買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに、点検、修理を依頼してください。

そのまま、使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。
＜異常・故障例＞

・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
・電源コードに深いキズや変形がある。
・コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
・焦げくさい臭いがする。
・ビリビリと電気を感じる。
・スイッチを入れても動かない。　など

23. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

◆ この取扱説明書、およびボッシュ電動工具カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

24. 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

- ◆ この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- ◆ 修理は、必ずお買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターにお申しつけください。

修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

ディスクグラインダーについての注意事項

電動工具全般の『安全上のご注意』について、前項ではご説明しました。
ここでは、ディスクグラインダーをお使いになるうえで、さらに守っていただきたい注意事項についてご説明します。

⚠ 警 告

1. **必ず、銘板に表示してある電圧の電源で使用してください。**
   ◆ 表示を超える電圧で使用しますと、回転数が異常に高速となりけがの原因になります。

2. **使用中に電源コードを破損した場合には、電源コードには触れないようにし、速やかに電源プラグを抜いてください。また、以後その電源コードのままでは、絶対に使用しないでください。**
   ◆ 破損したまま使用していると、感電や事故の原因になります。

3. **保護カバーを必ず取り付けて使用してください。**
   ◆ 使用しないと、工具類（砥石など）が破壊したとき、けがの原因になります。

4. **使用するオフセット砥石は、最高使用周速度72m/s以上の正規の砥石を取り付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。**
   ◆ 正規以外の砥石を使用したり、また側面や上面で研削すると、砥石が破壊し、けがの原因になります。

5. **砥石にヒビ、割れがないことを確認してから使用してください。**
   ◆ 異常があると、砥石が破壊し、けがの原因になります。

6. **使用中は、本体を確実に保持してください。**

7. **水、研削液などは使用しないでください。**

8. **上向き（定置形）にして使用しないでください。**

9. **切断砥石以外の砥石での切断作業はしないでください。**
   - ◆ 切断砥石以外の砥石使用は、けがの原因になります。

10. **切断砥石を使用する場合は、切断砥石用の保護カバーを取り付けてください。**
    - ◆ 取り付けないと、切断砥石が破壊したとき、けがの原因になります。

11. **使用中は、工具類（砥石など）や切り屑などに手や顔などを近づけないでください。**
    - ◆ 近づけると、けがの原因になります。

12. **本体を万力などで保持した使い方はしないでください。**

13. **研削砥石を使用する際、研削火花を吸じんしないでください。**
    - ◆ 吸じんすると、吸じんホースやクリーナーに引火し、火災の原因になります。

14. **研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。**
    - ◆ 火花が飛散すると、火災ややけどの原因になります。

15. **本体を作動させたまま床などに放置しないでください。**

16. **使用中、機械の調子が悪かったり、異常音がしたときは直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。**
    - ◆ そのまま使用していると、けがの原因になります。

17. **誤って落としたり、ぶつけたときは、工具類（砥石など）や本体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。**
    - ◆ 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

18. ［事業者の方へ］砥石の取り替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令	労働安全衛生法	第59条
	労働安全衛生規則	第36条
	労働安全特別教育規程	第１条、第２条

19. 使用する砥石は穴径22㎜φのものを使用してください。

◆ 穴径が合っていないと、砥石が外れたりし、けがの原因になります。

20. 使用中は電源コードを傷つけないよう注意し、常に本体の後方に離してご使用ください。

◆ 感電や故障の原因になります。

21. 加工材料は確実に固定してください。

◆ 確実に固定されていないと、けがの原因になります。

22. 作業する個所に、電線管や水道管、ガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

◆ 埋設物があると、砥石などが触れたときに感電したり、漏電やガス漏れが発生したりして、事故の原因になります。

23. ジグザグに切断したり、本体をこじったりしないでください。

◆ 強い反発力が生じたり、けが原因になります。

⚠ 注　意

1. 工具類（砥石など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。

   ◆ 確実でないと、外れたりし、けがの原因になります。

2. 新しい砥石を取り付け、はじめてスイッチを入れるときは、砥石の露出部から一時身体を避けてください。

   ◆ 砥石が破壊したとき、けがの原因になります。

3. 試運転を励行してください。

   砥石交換時　３分以上
   作業開始時　１分以上

4. 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っ張られたり、引っかけたりしないようにしてください。

   ◆ 材料や機体などを落としたときなど、事故の原因になります。

5. 取扱説明書に記載されている用途以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。

6. 工具類でコードを切断しないように注意してください。
   万一、コードを傷つけたり、誤って切断した場合は、直ちに電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

本製品について

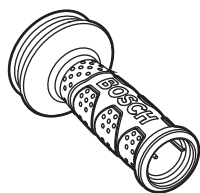
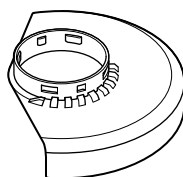
用　途

適切な先端工具を使用することで、以下の用途に使用できます。

- ◆ 各種研磨・研削（金属類、樹脂類など）
- ◆ 鉄などのバリ取りおよび仕上げ
- ◆ 塗装面の下地仕上げ、さび落とし、塗装落とし
- ◆ タイル、コンクリートなどの溝入れ

仕　様

型　番	GWS 12-125CI
定格電圧	単相 AC100V 50/60Hz
消費電力（入力）	1100 W
回転数（無負荷時）	11,000 min^{-1}（回転／分）
使用砥石径	φ125 mm
スピンドルネジ径	M14
砥石取り付け穴径	φ22 mm
最高使用周速度	72 m/s
質　量	2.3 kg

標準付属品

防振サイドハンドル

保護カバー

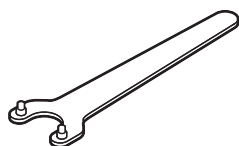
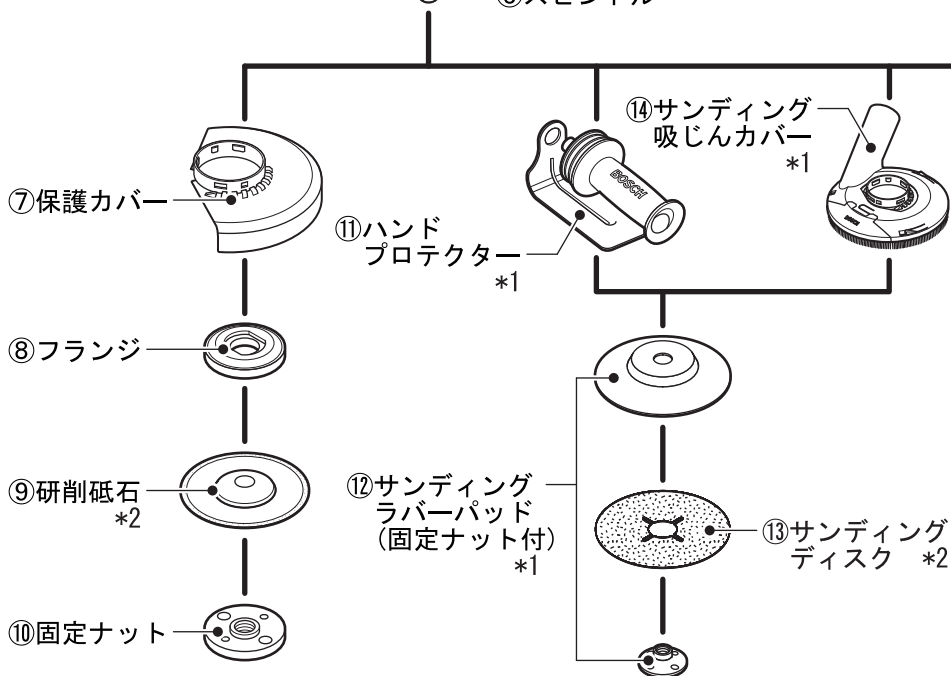
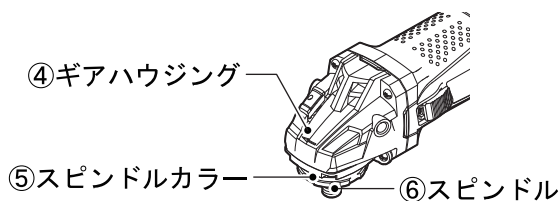
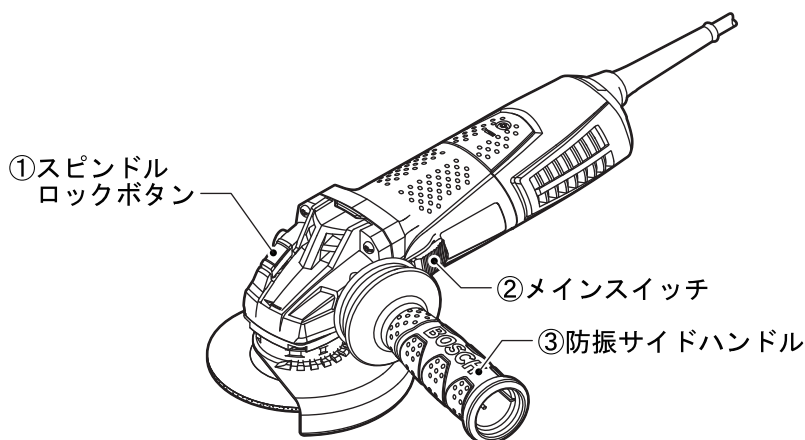
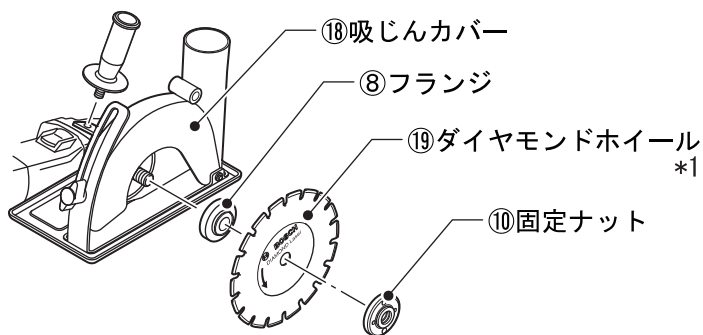
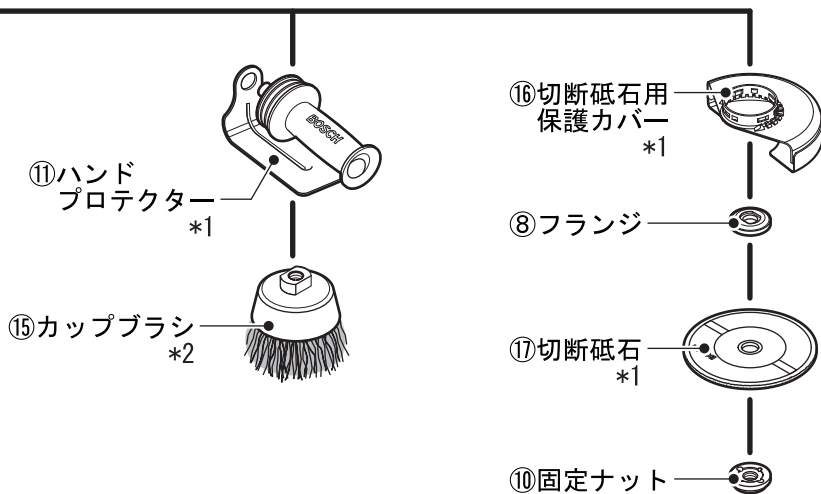
ピンスパナ

固定ナット

フランジ

◆イラストの形状・詳細は、実物と異なる場合があります。

各部の名称

①スピンドル
ロックボタン
②メインスイッチ
③防振サイドハンドル
BOSCH
④ギアハウジング
⑤スピンドルカラー
⑥スピンドル
⑦保護カバー
⑧フランジ
⑨研削砥石
*2
⑩固定ナット
⑪ハンド
プロテクター
*1
⑫サンディング
ラバーパッド
(固定ナット付)
*1
⑬サンディング
ディスク　*2
⑭サンディング
吸じんカバー
*1

*1 別売アクセサリー
*2 市販品

◆イラストの形状・詳細は、実物と異なる場合があります。

使い方

作業前の準備をする

⚠警告

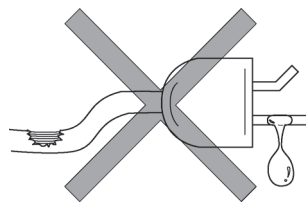
◆ 作業前の準備をするときは、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

◆ 電源コードや電源プラグが損傷しているときは、直ちに使用を中止してください。お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。

使用電源を点検する

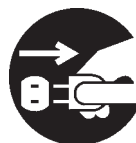
● 単相　AC100V（50/60Hz）か？

● コンセント不良（ガタ）のため、電源プラグが簡単に抜けないか？

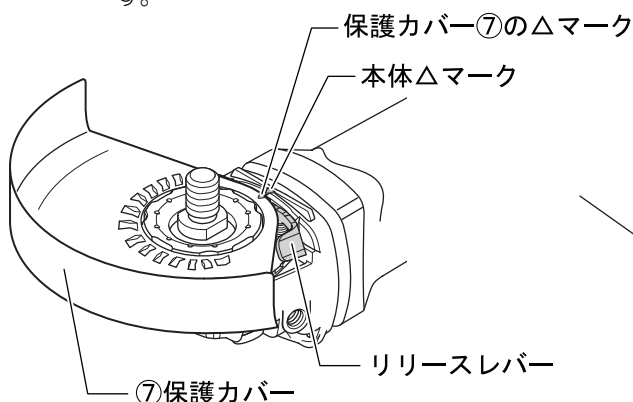
● 電源コードが断線していたり、電源プラグが破損していたりしていないか？

保護カバー⑦を取り付ける・取り外す

⚠警告

◆ けがの発生を防ぐため、取り付け・取り外し作業をするときは、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

◆ 保護カバー⑦は、安全のため必ず取り付けてください。

取り付け

1. 保護カバー⑦の凸部を本体スピンドルカラー⑤の凹部に合わせてはめ込みます。

   ☞ 本体の△マークと保護カバー⑦の△マークを合わせると凸凹が合います。

2. リリースレバーを押しながら保護カバー⑦を回転させ、作業者に火花が飛ばない位置に調節します。

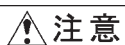
   ☞ 保護カバー⑦には、リリースレバーを離したときに、ロックする位置があります。

3. 保護カバー⑦が確実に取り付けられたか確認してください。

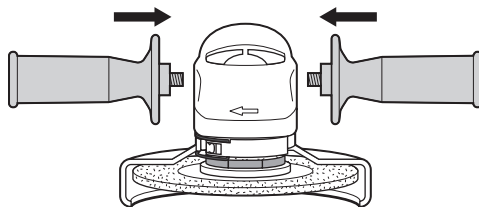
取り外し

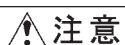
1. リリースレバーを押しながら保護カバー⑦の凸部を、本体凹部に合わせて取り外します。

   ☞ 本体の△マークと保護カバー⑦の△マークを合わせると凸凹が合います。

サイドハンドルを取り付ける・取り外す

⚠注意 ◆ サイドハンドルは必ず取り付け、両手で作業してください。

防振サイドハンドル③は、左右2方向に取り付けが可能です。防振サイドハンドル③を右方向（時計方向）に回すとネジが締まり、左方向（反時計方向）に回すと緩みます。作業内容に応じて最も作業しやすい側に取り付けてください。

使い方

先端工具を取り付ける・取り外す

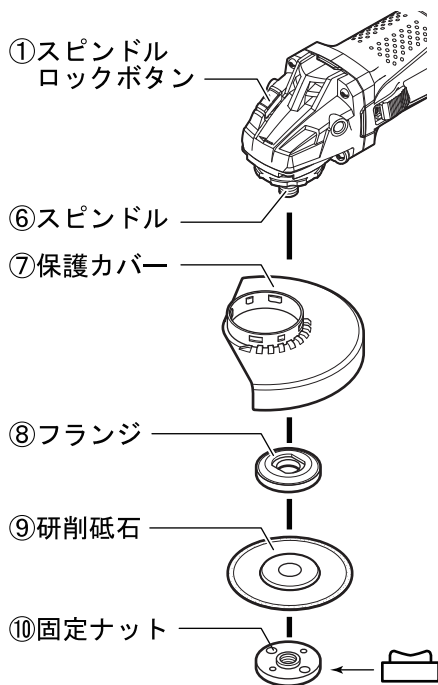
⚠警告 ◆ けがの発生を防ぐため、先端工具を取り付けたり取り外したりするときは、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

⚠注意
- ◆ 先端工具を取り付けたり取り外したりするときは、手など身体を傷つけないように十分注意してください。
- ◆ 先端工具は、弊社指定のものを使用してください。
- ◆ スピンドルと先端工具は常にきれいにしておいてください。

●先端工具は本機の最高回転数11,000回転／分（最高使用周速度72m/s）に適合したものをご使用ください。

研削砥石

取り付け

1. 保護カバー⑦が、確実に取り付けられているか確認します。
   保護カバー⑦が取り付けられていないときは、取り付けてください。

2. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。
   ☞ スピンドル⑥には「スピンドルロックボタン①」がかみ合う位置があります。「スピンドルロックボタン①」を押しながら固定ナット⑩を回し、スピンドル⑥が確実にロックする位置を探してください。スピンドル⑥がロックする位置では「スピンドルロックボタン①」が一段深く押し込めます。
   ☞ スピンドル⑥がロックされていないと、固定ナット⑩は緩めることができません。

3. フランジ⑧の凹がスピンドル⑥にかみ合うようにはめ込まれているか確認します。

4. 研削砥石⑨の内径を、フランジ⑧の凸に合わせてはめ込みます。

5. 固定ナット⑩の凸を本体側（砥石側）に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

6. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナで固定ナット⑩を締めます。
   ☞ スピンドル⑥がロックされていないと、固定ナット⑩は締め付けることができません。

7. 「スピンドルロックボタン①」を離します。

使い方

8. 研削砥石⑨が確実に取り付けられているか確認します。
砥石を手で逆回転方向（本体の矢印と逆方向）に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
☞ 砥石を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

9. 研削砥石⑨が、保護カバー⑦の内部に接触していないことを確認します。

取り外し

使い方

1. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。
☞ スピンドル⑥には「スピンドルロックボタン①」がかみ合う位置があります。「スピンドルロックボタン①」を押しながら固定ナット⑩を回し、スピンドル⑥が確実にロックする位置を探してください。スピンドル⑥がロックする位置では「スピンドルロックボタン①」が一段深く押し込めます。
☞ スピンドル⑥がロックされていないと、固定ナット⑩は緩めることができません。

2. 研削砥石⑨を取り外します。

3. 固定ナット⑩の凸を本体側に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

切断砥石

取り付け

1. 切断砥石用保護カバー⑯（別売）が取り付けられているか確認します。
他の保護カバーが取り付けられているときは、切断砥石用保護カバー⑯に交換してください。

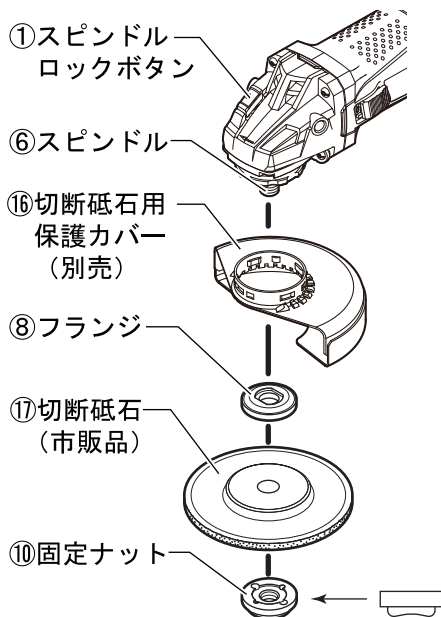
2. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。

3. スピンドル⑥にフランジ⑧の凹部がかみ合うようにはめ込まれているか確認します。

4. 切断砥石⑰（市販品）の内径を、フランジ⑧の凸部に合わせてはめ込みます。

5. 固定ナット⑩の凹を本体側（砥石側）に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

6. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナで固定ナット⑩を締めます。

7. 切断砥石⑰が確実に取り付けられているか確認します。
切断砥石⑰を手で逆回転方向（本体の矢印と逆方向）に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
☞ 切断砥石⑰を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

8. 「スピンドルロックボタン①」を放します。

9. 切断砥石⑰が切断砥石用保護カバー⑯の内部に接触していないことを確認します。

取り外し

1. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。

2. 切断砥石⑰を取り外します。

3. 固定ナット⑩の凸を本体側に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

サンディングディスク（市販品）

取り付け

1. 保護カバーが取り付けられていないことを確認します。取り付けられているときは、外してください。

2. 防振サイドハンドル③を取り外します。

3. ハンドプロテクター⑪（別売）を防振サイドハンドル③で本体に取り付けます。ハンドプロテクター⑪と防振サイドハンドル③は、左右どちらにも取り付け可能です。

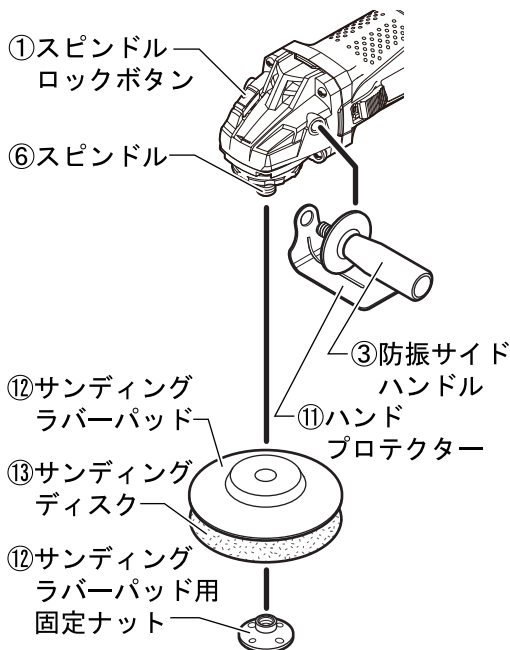
4. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて取り外します。

5. フランジ⑧を取り外します。

6. スピンドル⑥にサンディングラバーパッド⑫（別売）とサンディングディスク⑬（市販品）をはめ込みます。

7. サンディングラバーパッド用固定ナット⑫（サンディングラバーパッド⑫のセット品）の凸を本体側（サンディングラバーパッド側）に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

8. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナでサンディングラバーパッド用固定ナット⑫を締めます。

使い方

9. サンディングラバーパッド⑫とサンディングディスク⑬が確実に取り付けられているか確認します。
   サンディングディスク⑬を手で逆回転方向（本体の矢印と逆方向）に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
   ☞ サンディングディスク⑬を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

取り外し

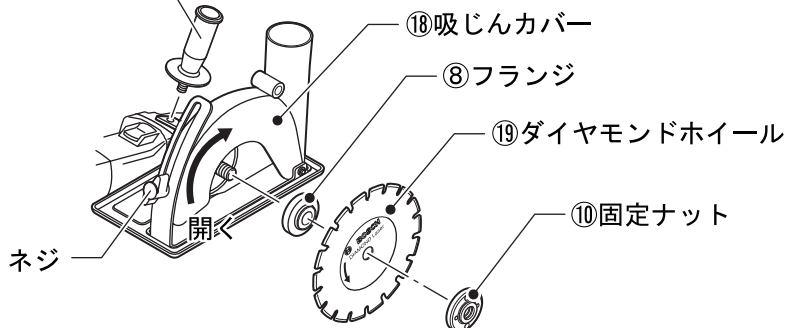
1. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナでサンディングラバーパッド用固定ナット⑫を緩めて取り外します。

2. サンディングラバーパッド⑫とサンディングディスク⑬を取り外します。

3. スピンドル⑥にフランジ⑧をはめ込みます。

4. 固定ナット⑩の凸を本体側に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

ダイヤモンドホイール

③防振サイドハンドル
⑱吸じんカバー
⑧フランジ
⑲ダイヤモンドホイール
⑩固定ナット
開く
ネジ

取り付け

1. 保護カバー⑦や先端工具を取り外します。
（17 ページ「保護カバー⑦を取り付ける・取り外す」、18 ページ「先端工具を取り付ける・取り外す」参照）

2. 防振サイドハンドル③を取り外します。

3. 吸じんカバー⑱の凸部を、本体スピンドルカラー⑤の凹部に合わせて、はめ込みます。

4. 吸じんカバー⑱のサイドハンドル取り付け穴と、本体のサイドハンドル取り付け穴の位置を合わせ、防振サイドハンドル③を取り付けます。

5. 吸じんカバー⑱が本体に確実に取り付けられているか確認します。

6. フランジ⑧の凹部がスピンドル⑥にかみ合うように、フランジ⑧をはめ込みます。

7. ダイヤモンドホイール⑲を、スピンドル⑥にはめ込みます。
☞ ダイヤモンドホイール⑲の回転方向に注意してください。

8. 固定ナット⑩の凹を本体側（ダイヤモンドホイール側）に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

使い方

9. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナで固定ナット⑩を締めます。
   ☞ スピンドル⑥には「スピンドルロックボタン①」がかみ合う位置があります。「スピンドルロックボタン①」を押しながら固定ナット⑩を回し、スピンドルが確実にロックする位置を探してください。スピンドル⑥がロックする位置では「スピンドルロックボタン①」が一段深く押し込まれます。
   ☞ スピンドル⑥がロックされていないと、固定ナット⑩は締め付けることができません。

10. 「スピンドルロックボタン①」を離します。

11. ダイヤモンドホイール⑲が確実に取り付けられているか、確認します。ダイヤモンドホイール⑲を手で逆回転方向に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
   ☞ ダイヤモンドホイール⑲を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

12. ダイヤモンドホイール⑲が吸じんカバー⑱の内部に接触していないことを確認します。

取り外し

1. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑩を緩めて外します。
   ☞ スピンドル⑥には「スピンドルロックボタン①」がかみ合う位置があります。「スピンドルロックボタン①」を押しながら固定ナット⑩を回し、スピンドルが確実にロックする位置を探してください。スピンドル⑥がロックする位置では「スピンドルロックボタン①」が一段深く押し込まれます。
   ☞ スピンドル⑥がロックされていないと、固定ナット⑩は緩めることができません。

2. 「スピンドルロックボタン①」を放します。

3. ダイヤモンドホイール⑲を取り外します。

4. フランジ⑧を取り外します。

5. 防振サイドハンドル③を取り外します。

6. 吸じんカバー⑱を取り外します。

7. 本体に、防振サイドハンドル③を取り付けます。

8. スピンドル⑥にフランジ⑧の凹部がかみ合うように、フランジ⑧をはめ込みます。

9. 固定ナット⑩の凸を本体側に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

カップブラシ（ネジ式）を使う

取り付け

1. 保護カバー⑦を取り外します。

2. 防振サイドハンドル③を取り外します。

3. ハンドプロテクター⑪（別売）を防振サイドハンドル③で本体に取り付けます。
   ハンドプロテクター⑪と防振サイドハンドル③は、左右どちらにも取り付け可能です。

4. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スパナ（標準付属品）で固定ナット⑪を緩めて取り外します。

5. フランジ⑨を取り外します。

6. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、スピンドル⑥にカップブラシ⑬をねじ込みます。

7. カップブラシ⑮が確実に取り付けられているか確認します。
   カップブラシ⑮に緩みやガタがなければ取り付け完了です。
   ☞ カップブラシ⑮を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

☞ 取り外したフランジ⑧や固定ナット⑩は大切に保管してください。

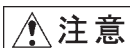
取り外し

1. 「スピンドルロックボタン①」を押しながら、カップブラシ⑮を緩めて取り外します。

2. スピンドル⑥にフランジ⑧をはめ込みます。

3. 固定ナット⑩の凸を本体側に向け、スピンドル⑥にねじ込みます。

⚠警告

◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、「メインスイッチ②」が“切”になっていることを確認してください。

⚠注意

◆ 必ず試運転を行い、砥石にヒビや割れがないことを確認してください。（労働安全衛生規則第118条）
※試運転時間
・砥石交換時　　３分以上
・作業開始時　　１分以上

◆ 加工物は、万力やクランプなどを利用して、しっかりと固定してください。

◆ 作業中は、回転が停止するような強い力で過負荷を与えないでください。

◆ 作業する前には、必ず先端工具を点検してください。ヒビ割れ、欠け、曲がりがある場合は、使用しないでください。

◆ 本機は乾式のみで使用してください。

☞ 本機は、下記のような安全で使いやすい特性を持っています。

電子制御機構

・ソフトスタート　　：始動時の反動を低減します。
・コンスタントスピード　：常に一定回転速度を維持し作業効率を高めます。
・過負荷保護装置　　：一定以上の負荷が加わると自動的にモーターが停止し、焼損を防止します。
負荷を取り除くことで再始動します。

キックバック機構

作業中に先端工具を瞬時に停止させる負荷がかかった場合、作業者に大きな危険が生じます。瞬時に一定以上の負荷が掛かった場合、自動的にモーターが停止し使用者を保護します。
再始動させるには、「メインスイッチ②」を“切”にし、再度“入”にしてください。

再始動安全機構

使用中に電源プラグが電源コンセントから抜けた場合、「メインスイッチ②」が“入”のままで電源プラグを電源コンセントに差し込んでも、安全機構が作動し本機は始動しません。
本機の「メインスイッチ②」を“切”にした後、“入”にすると再始動します。

研磨・研削作業

① 電源プラグを電源コンセントに差し込む

⚠警告 ◆「メインスイッチ②」が“切”になっていることを確かめてから、電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。

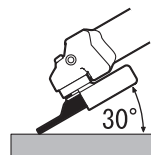
② 「メインスイッチ②」を“入”にする

入 ：スイッチを先端方向にスライドさせながら押し込みます。
　　スイッチは固定され、連続運転します。

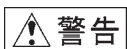
切 ：スイッチの後方を押します。
　　スイッチが後方に戻り、停止します。

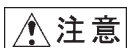
☞ 「メインスイッチ②」は、研削砥石⑨が加工材などに当たらない位置で“入”にしてください。
☞ 作業は、回転が完全に上昇してから開始してください。

③ 研磨・研削作業をする

効率の良い作業をするには、砥石の全面を使用するのではなく、15°～30°傾け、外周部分で行います。
火花が一番多く出る状態が最適です。

☞ 押し付ける力は、グラインダー本体の重さだけで充分ですので、無理に押し付けないでください。過度に荷重をかけると研削能力が低下するうえに、仕上げもきたなくなります。また、モーターの故障の原因にもなりますので注意してください。

☞ 新しい研削砥石⑨の場合は、砥石の角が取れるまで、後方に引いて使用してください。前方に押して使用すると、加工材に食い込むことがあります。

石材、コンクリートの切断（ダイヤモンドホイール使用）

⚠警告

◆ 吸じんカバー（別売）を使用し、吸じんしながら作業を行ってください。
◆ ダイヤモンドホイールの矢印と、本体先端部の矢印を同じ方向に合わせて使用してください。
◆ モーター焼損の原因となりますので、１回の切り込み量は20㎜以下にしてください。
◆ 水、研削液などは使用しないでください。

⚠注意

◆ 作業環境をクリーンに保ち、作業者の健康を守るため、吸じんカバーを使用して吸じんシステムと接続し、粉じんを吸入してください。
◆ 作業中は防じんマスクを着用してください。

① 電源プラグを電源コンセントに差し込む

② 「メインスイッチ②」を“入”にする

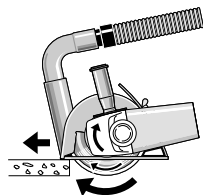
入 ：スイッチを先端方向にスライドさせながら押し込みます。
　　スイッチは固定され、連続運転します。

切 ：スイッチの後方を押します。
　　スイッチが後方に戻り、停止します。

☞ 吸じんカバー⑱のベースの先端を切断材料の上に乗せ、ダイヤモンドホイール⑲が切断材料に触れない位置で「メインスイッチ②」を入れてください。
☞ 作業は、回転が完全に上昇してから開始してください。

③ 切断作業をする

本体をしっかりと保持し、ダイヤモンドホイール⑲の回転が上昇したら、ゆっくりとまっすぐ前方へ押し進めてください。決して無理をせず、切り終えるまで同じペースで行ってください。

☞ 吸じんカバー⑱は、カバーの前方から吸じんを行います。本機を材料に対して垂直に接地し、適切なスピードで前方に押して作業を行ってください。

鉄、その他金属の切断（切断砥石使用）

⚠警告
- ◆ 水、切削液などは使用しないでください。
- ◆ 必ず切断砥石用の保護カバー（別売）を取り付けて作業を行ってください。
- ◆ 切断砥石以外の砥石での切断作業はしないでください。
- ◆ 切断火花を吸じんしないでください。

① 電源プラグを電源コンセントに差し込む

使い方

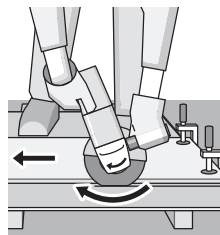
② 「メインスイッチ②」を“入”にする

入　：スイッチを先端方向にスライドさせながら押し込みます。
　　　スイッチは固定され、連続運転します。

切　：スイッチの後方を押します。
　　　スイッチが後方に戻り、停止します。

☞ 切断砥石⑰が切断材料に触れない位置で「メインスイッチ②」を入れてください。
☞ 作業は、回転が完全に上昇してから開始してください。

③ 切断作業をする

本体をしっかりと保持し、切断砥石⑰の回転が上昇したら、ゆっくりとまっすぐ前方へ押し進めてください。決して無理をせず、切り終えるまで同じペースで行ってください。

困ったときは

修理を依頼するときは

◆ 『故障かな？と思ったら』を読んでもご不明な点があるときは、お買い求めの販売店または弊社コールセンターフリーダイヤルまでお尋ねください。
◆ 修理を依頼されるときは、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターにご相談ください。
◆ この製品は厳重な品質管理体制の下に製造されています。万一、本取扱説明書に書かれたとおり正しくお使いいただいたにもかかわらず、不具合（消耗部品を除きます）が発生した場合は、お買い求めの販売店または、ボッシュ電動工具サービスセンターまでご連絡ください。
弊社で現品を点検・調査のうえ、対処させていただきます。お客様のご使用状況によって、修理費用を申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。

コールセンターフリーダイヤル 0120-345-762
土・日・祝日を除く、午前 9：00～午後 6：00
※携帯電話からお掛けのお客様は、TEL. 03-5485-6161 をご利用ください。
コールセンターフリーダイヤルのご利用はできませんのでご了承ください。

ボッシュ株式会社ホームページ http://www.bosch.co.jp

ボッシュ電動工具サービスセンター
〒360-0107 埼玉県熊谷市千代 39
TEL 048-536-7171 FAX 048-536-7176

ボッシュ電動工具サービスセンター西日本
〒811-0104 福岡県糟屋郡新宮町的野 741-1
TEL 092-963-3486 FAX 092-963-3407

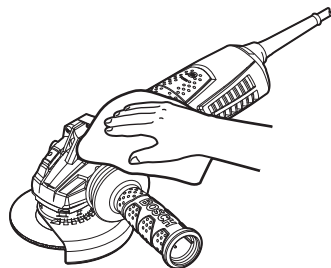
お手入れと保管

⚠警告 ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、ディスクグラインダー本体の電源を抜き、お手入れしてください。

クリーニング

通風口などに付いたゴミ、ホコリを吹き飛ばす

乾いた、柔らかい布で本体の汚れをふき取る

☞ 変色の原因になるベンジンなど、溶剤を使わないでください。

モーターを無負荷運転させる

保　管

ディスクグラインダーを使った後は、きちんと保管する

- 子供の手が届くところ、または錠が掛からないところに置かない。
- 風雨にさらされたり、湿度の高いところに置かない。
- 直射日光が当たったり、車中など高温になるところに置かない。
- ガソリンなど、引火性が高いものの近くに置かない。